



福祉と住環境を考える

ふくてっく

559-0034 大阪市住之江区南港北 2-1-10 ATC・ITM 棟 5階 J-5-4
 TEL 06-6614-6800
 mail@fukutech.sakura.ne.jp http://fukutech.sakura.ne.jp/

2020年7月
第98号

特定非営利活動法人

ふくてっく

12月学習会

防災ワークショップ ～OSAKA 防災タイムアタック！～

ゲームを通して、災害時に生き抜くチカラを身につけよう。

「迫り来る”南海トラフ巨大地震” そのとき、あなたは どうしますか？」

近年、自然災害によって多くの人命や財産が失われています。被害を最小限にとどめるには、自助・共助が重要と言われています。今回の学習会では、大阪市立総合生涯学習センターと神戸学院大学とが共同して制作した防災学習プログラム『OSAKA 防災タイムアタック！』等を使用して、防災・減災に対する心構え、災害時の行動、災害が起きた時の対処方法等を確認していきます。

「地震」「津波」の基礎知識、避難行動に関する知識を得るDVDを視聴した後、パネルクイズやクロスワードパズルなどを解きながら防災の知識をチェックしました。

当会の清水麗子会員がファシリテーターを務め、参加者は3つのグループに分かれて競い合います。最初のパネルクイズは3択問題です。参加者は其々3枚のカードを持ち、グループ毎に回答番号のカードを提示し、グループ内で一番多かった番号をそのグループの答えとします。

【ステップ1】

基礎知識（設問12）では、設問は「南海トラフ巨大地震、大阪府で想定されている帰宅困難者は何人？」 解答は「①約50万人、②約90万人、③120万人」の中から該当するカード番号選びます。正解は②約90万人、さすが全員正解でした！



避難するときは大人も、子供も『おかしも』で



【ステップ2】

地震発生&避難編（設問5）では、一人ずつ理由を述べたうえで、多数決でグループの答えとします。みなさん優秀です！

【ステップ3】

クロスワードパズルと地震発生時の3つの場面（電車内にいる時・車に乗っている時・川や海にいる時）で①考えられる危険性、②対処方法について、時間内にグループ内で話し合っ、グループの答えを決定します。

最後に、我が家の防災チェックシートで、今日のおさらいを行った後、我が家の防災対策チェック！非常用持出袋や備蓄品の用意が万全かチェックします。

知識においては優秀な参加者ですが、我が家の防災対策に関しては、準備が十分とは言えない方が多い事が解りました。今回の学習会を契機に、在宅で避難するか、避難所へ行くのか、ハザードマップ等で確認した後に、備蓄品や持出袋等の見直しが宿題としてお持ち帰りいただく事になりました。

災害から命を守るため、被災しても生きぬけるように、自助の力を高めましょう。

（記：清水 麗子）

※「災害用伝言ダイヤル171」の使い方をご存知ですか。

- 伝言を録音するとき ①「171」を押します。
 ②音声案内に従い「1」を押します。
 ③自分の電話番号を登録し、音声案内に従って安否等のメッセージを録音します。

- 伝言を再生するとき ①「171」を押します。
 ②音声案内に従い「2」を押します。
 ③安否を確認したい相手先の電話番号を押します。

こむねっと部会

～コロナ後の第三者評価～

この度のコロナ禍に対して、我が国では諸外国に比して強制的な権利制限もなく、また大規模な感染検査体制もとらないまま、不思議な抑制成果が顕われている。日本独特の生活スタイルや衛生観念、公共心、民度・・・そして医療体制の確かさなどが要因ではないかとか、単なるラッキーだという説まで飛び交っている始末。

それはさておき、今回の経験は、これからの社会の在り方について根本的な問題提起を投げかけている。

グローバル経済の終焉、自由主義経済の危機、冷戦の始まりなど、全世界的な動向についての議論は他に譲るとして、我々にとっての課題である“地域福祉”そして“福祉サービス第三者評価”についての課題を考えてみよう。

すぐに気になることは、訪問活動や評価についての合議、あるいは研修活動等々、評価活動に欠かせない会議や面談に関する制約であるが、それらは気を付ければ済む話。根本的な問題ではない。それ以上に重大な課題が突き付けられている。

復興の変質

まず、災害復旧や防災、減災そのものの概念の大きな変化に気が付かされる。

古くは戦後の復興があった。それはまさしく戦争によって破壊された国土の再構築であり、その後の様々な災害復旧のモデルとなっている。政治がリードして、土木や建築が復興を推進してきた。しかしながら、近年頻発した地震や風水害等の災害復旧では、そうした物理的な社会構造の再構築ではなく、社会の仕組みをより強靱化することが求められたはずだが、結果的にはやはりハードやインフラの回復に重きが置かれた古典的な復興が推進されて、社会の再編という趣旨は影が薄い。残念ながら戦後復興に代表される古典的手法からの脱却は成功しなかったと言える。

そうして、今回のコロナである。ここではハードやインフラが破壊されたのではない。

それまで、当たり前を保たれていた“つながり”が破壊されたのだ。従って、コロナ後の復旧は、これ迄われわれが経験した事のない発想をもって取り組む必要がある。これまでの災害復旧概念は通用しない。人とひとのつながりの新時代化が求められている。ネットの活用だとかテレワークとか、そんな“ツール”に矮小化してはいけないのである。そればかりに固執していると、下手をすれば、ひとのつながりが抹殺されかねない。

福祉の変質

福祉は、まさにひとがひとを支えるネットワークに他ならない。この度のコロナ禍は、仮にとりあえず収まったとしても完全に解消されることはなく、また新たな感染症が繰り返し、繰り返し襲ってくるだろう。それでも人が社会を構成する以上、福祉は消してしまうことのできない営みだ。感染症を避けることだけを考えるのではなく、むしろこれとも共生しながらの福祉を考えていかねばならない。当然のことながら人的配置や環境整備にいたるまで、根本的に見直しが必要となろう。それが果たせたときに、災害復旧を主導するものは、政治ではなく、まして土木や建築ではなく、福祉こそが原動力となるはずだ。

第三者評価の変質

第三者評価においても、今後は以上の観点を踏まえて、福祉がどうあるべきか、福祉のBCPは如何に？地域に開かれた福祉とは何か？を問い続けていくことになる。福祉を考えるということは、バリアフリー（社会的障壁の除去）やセーフティネット（弱者救済）が命題ではなく、そもそも人が社会を構成することとは何か？を考えることではなかったか。

さて、みなさん、いかがであらうか。

第三者評価を通じて、福祉を新しい局面に導いていこう。

(記：中北 清)

画：中北 清

大東市 御陵地区

旧御領村は、河内を代表する水郷地帯。江戸時代に行われた新田開発で稲作や蓮根の一大産地になり、昭和40年頃まで、農業や地域住民の暮らしを育む道として田舟（肥料や稲を運ぶための小舟）が通っていました。

水路に沿って整備された道をゆっくりと歩くと向かい側には120年以上前の母屋や長屋門、農業用倉庫、田舟の船着場などが見えてきます。

江戸時代の面影残る、清らかなせせらぎ散策路です。



東大阪部会

～ 出 前 講 座 ～

『たかが手すり、されど手すり』 & 『介護保険による住宅改修』



令和元年10月14日(月/祝)

手すりを考える会

第1部「手すりを考える会」紹介

第2部 出前講座

「たかが手すり、されど手すり」

第3部「意見交換会」

「手すりを考える会」の紹介の中で、街中の手すりの使い勝手の検証ビデオを見せて頂きました。一例として、波型の手すりは階段昇降の際に手を滑らせて移動することができず、手を持ち替える必要があり、手すりから手が離れ、体が不安定に、手元と足元の両方に集中力が必要となり昇降に時間がかかっていました。

講座の後に手すりについて普段思っていることなど、活発な意見交換を行いました。



令和元年12月18日(水)手と手とハウス

『たかが手すり、されど手すり』

講師の話を手話、触手話、指文字などをつかって「手と手とハウス」のメンバーの方が参加者へ伝えます。講座の話と話の間の時間を十分にとりました

出前講座は、大阪市住まい情報センターと連携する住まいに関する専門家やNPO等が、地域で活動している団体とところまで出向き(大阪市内にかぎりませんが…)、住まいや暮らしに役立つ情報をお届けしています。

当会が実施している出前講座は、昨年度に引き続き「たかが手すり、されど手すり」と「必要になる前に知っておこう!介護保険による住宅改修」の講座です。令和元年度は、10月14日「手すりを考える会」の依頼により、テーマ「たかが手すり、されど手すり」、次に12月18日(水)「手と手とハウス」の依頼により、テーマ「たかが手すり、されど手すり」、12月27日「大阪重症心身障碍児者を支える会」の依頼によりテーマ「たかが手すり、されど手すり」&「介護保険による住宅改修」、最後に1月22日「西成区福祉センター」の依頼によりテーマ『たかが手すり、されど手すり』にて行いました。

テーマ「たかが手すり、されど手すり」では手すりのサンプルを使って太さの違いによる力の入り具合の違いや、自分に合った手すりの高さなどを体験していただきました。手すりは、あれば大丈夫というものではありません。心身の状況、動作、握力や手指巧緻性が異なれば必要な手すりの形状等も異なってきます。また、身長が違えば、適正な手すりの高さも違います。たかが手すりと思わないでください、住み慣れた家でくらしにくくするために『手すりをあなどるなかれ!』です。

テーマ「介護保険による住宅改修」では、介護保険による住宅改修の目的や対象工事等について話をしました。高齢になっても、住み慣れた自宅でできるだけ長く自立して暮らせるように、家庭内の事故防止、自立支援、介護者の負担軽減等に繋がることを目的としており、①手すりの取り付け ②段差の解消 ③滑り防止及び移動の円滑化等のための床、又は通路の材料の変更 ④引き戸等への扉の取替え ⑤洋式便器等への便器の取替え ⑥その他①～⑤の住宅改修に付帯して必要となる住宅改修、①～⑥が対象工事となります。自立や介護をしやすい生活環境を整えるための必要最小限の小規模な住宅改修を行うことができます。但し、老朽化に伴う家屋の補修、対象者の生活動線外の場所、新築、改修、増築、リフォームは対象とはなりません。

以上、令和元年度後半、4回の出前講座を実施いたしました。

(記:春岡 須磨子)



令和元年12月27日(金)

大阪重症心身障碍児者を支える

『たかが手すり、されど手すり』&
『介護保険による住宅改修』

講座は対話を交えながら進んでいきました。



令和2年1月22日(水)

西成区福祉センター

『たかが手すり、されど手すり』

手すりのサンプルで形状の違いなどを体感してもらいました

ふくてっくのつどい

「生駒いいもり山訪問」

寒い時期も過ぎ、そろそろ今年の木工活動に必要な材料を調達しようと、生駒いいもり山（以降、里山）を訪問しました。昨年末の3つの活動（会誌97号掲載）ですっきり材料を使い切り、ふくてっくの自由木工の特徴である自然木の輪切りや小枝などのストックが心許無くなっていました。

久しぶりに里山に行くと自然がいっぱいで、まだ春先の花々を鑑賞するには早い時期でしたが、季節の果実や小さな花が参道のいたるところに見る事が出来ました。里山ではふくてっくの為に伐採した木々を山肌に寝かせて保管してくれているので、その時に必要な太さの

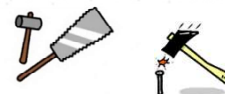


木や長さの枝をみんなで集める所から始まります。今回も、しっかり希望の木々を作業場まで運び、それからいつもの慣れた作業を電動工具やのこぎり、ノミなどを使ってどんどん工作用の木片を用意していきます。里山なので多少の音を出す工具も使えますし、木くずも気にせず本当に助かります。

ひと仕事を終えれば、疲れを癒す昼食と冷たいビールで乾杯！里山の景観と作業後の達成感で美味しさもひとしおです。食事中は時には里山での苦労話や笑い話、野菜への虫害など自然との共存は大変だという貴重な話も聞けます。いつもお世話になる里山の松口さんと西川さんには感謝ですが、これからもいつまでもお元気で私達の木工活動にお付き合い頂きたいと思えます。

ひと仕事終えビールで乾杯!! 眺めも最高です。

「つどい」木工活動が相次ぐ中止



平常なら今年最初の「つどい」の木工活動になるはずの3月20日（祝）パープルデー大阪。昨年初めて参加した『パープルデー大阪～てんかん啓発キャンペーン～』（長居植物公園）に今年も自由木工で協力参加頂きたいと連絡を頂いたのが昨年の12月。それから何度か話を伺い開催に向けて調整してきましたが、残念ながら今年は新型コロナウイルス感染拡大によって中止になりました。今に思えばまだ感染者が少ない状態の2月21日の段階で、国、大阪府が3月20日までのイベント自粛要請が出たことを受け、不特定多数の参加や病弱者を扱うイベントとしては中止にせざるを得ないという判断となったようです。本当に残念ですが、主催者は早速来年に向けて動き

しており2021年は3月20日（祝）に開催する事を決めた様です。同じ長居植物公園での開催を目標に、今年見られなかった子供達の笑顔を1年待ちたいと思います。

また5月31日（日）に開催予定で毎年参加している『5時間共生・共走マラソン』内での木工体験活動も中止になりました。こちらも主催者が障がい者団体であり、参加する人達も障がい者・児が多く、やはりリスクが高いので中止とし、来年の5月30日（日）に開催するので、みんな大変楽しみにしているのでは是非参加してくださいと嬉しいお誘いもあり、こちらも来年リベンジです。

恒例！カニパーティー開催

毎年恒例の会員親睦会としてカニパーティーを開催しました。(10名参加)今年はずも利用している会場との日程が合わず、他の会場探して苦労し、一度は開催を断念しましたが、年に一度の美味しいカニ賞味を待つ人達の願いが届きふくてっく会員である岡さん宅で開催する事になりました。

この日は木工活動を予定していたのですが、新型コロナの影響で中止になった事から活動参加を予定していた会員も多く集合しやすいという理由でこの日になりました。ただ、世の中はコロナ感染拡大に注意を促していた時期でもあり、自粛お願いが続いていたので3密を回避する上で少々寒くても換気をし、対策をとって行いました。

やっぱりカニのフルコースは今年も大変美味しく、持ち込のお酒も多種多様で一時的気分転換になりました。

家のみでしたので、みんな気兼ねなく飲んで食べた後は横に

なり、寝入ってしまう人もいましたがこういう機会を今年も持てたことが本当に楽しく、当然！来年もここでやろな！と締めくくりました。今回自宅を提供頂いた岡さんには感謝、感謝です。来年もよろしく願います。(小川 忠雄)



カニのフルコース!!お酒もすすみます。

『わざわざ高知で走ったぜよ！』

大塚裕司

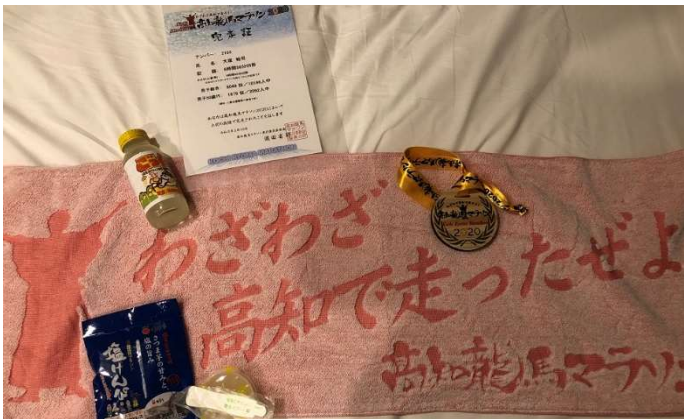
毎年2月の第3日曜日に開催される「龍馬マラソン」。今年は2月16日の開催でした。世間では、コロナウイルスによるイベントの自粛が呼びかけられ始めた時期でしたが、何とか開催されました（実際、その後のマラソンイベントは続々と中止されています）。

大会当日、大会史上初めての雨。雨男の私ですが、今までは強力な晴れ人間がいたお陰(?)だったのか、1日中悪天候の大会は初めての経験です。

雨の市街地を抜け、20km地点では高低差約40mの浦戸大橋を渡り、桂浜と大荒れの太平洋を左手に眺めながら花街道を走り、雨に霞む仁淀川を往復して、山間にある春野陸上競技場を目指しました。もともと長距離走が嫌いな上、今回は余り練習も出来ていなかったの、案の定10km付近から脚が上がらなくなり、その後はほぼ歩いていた状態だったので完走も危ぶんでいましたが、制限時間7時間の所を、6時間58分と言うギリギリの時間で完走出来ました。

これまでフルマラソンの大会は8回走って来た訳ですが、今回もボランティアの方々や、自主的に沿道まで応援に来られている地元民の方々が素晴らしかったです。補給食の差し入れやスプレー式鎮痛消炎剤（エアサロンパス等）を持参して（もちろん皆さん自腹）、ランナー達をバックアップしてくれました。振り返ると、あの応援があったからこそ、最後まで走りきる（歩ききる？）ことが出来たのだと思います。もうフルマラソンは懲り懲りと毎回思っていますが、あの応援を思い出すともう一回走っても良いかな〜と思わせるほど、心温かい一幕です。

大会後に高知の友人に連れて行ってもらったお店で出た「カツオの塩タタキ」を食べる為に、来年も行ってみようかな〜・・・なんて思ったりして・・・(笑)。



雨の中を走るランナー



高低差40mの浦戸大橋

会員コラム

『救急車を呼ぶ前に』

後藤秀樹

昨年校区町会主催の防災訓練が神石小学校（私の卒業校）の校庭で消防署、水道局の協力のもと防災訓練が実施されました。訓練は倒壊した家屋の下敷きになったダミーの人形の救出、搬送後の蘇生の訓練、消火栓の操作と放水の訓練等大人も子供も熱心に体験をしました。

消防隊員さんに待機中のポンプ車の放水量を質問したところ「1.5トン貯水されており、約2分で放水してしまうとのこと。

近年は火事の出動は減少しているが、救急車の出動件数は昨年と比べ増加しておりその影響で現場までの到着時間が遅くなっている」とのこと。ネットで調べたところ、救急車で搬送される6割の人は入院の必要のない軽症との現状もある様です。このままでは真に緊急を要する方への対応が遅れ救命率に影響が出る恐れがあるとのこと。

便利だから、交通手段がないから、病院で待つのが嫌だから・・・、「取り敢えず119番救急車」は考えものです。

いざという時に本当に救急医療を必要とする人に、適切な医療が行き渡るよう、日頃より救急車を呼ぶべき症状のポイントを知る必要があるのでは、と思いました。

今日は、コロナウイルスで世の中は大変混乱をしています。予防対策には十分注意してください。



防災訓練にやってきたポンプ車。貯水量は1.5トン!!

《お知らせ》

「ある日のお客様との会話」

今回はお休みです。次回をお楽しみに!!



■ R2年1月以降 学習会

- 1月 親睦会 (学習会なし)
- 2月 「たかが手すり、されど手すり」
講師：東大阪部会
- 3月 定例会中止
- 4月 定例会のみ (学習会なし)
- 5月 定例会中止
- 6月 定例会のみ (学習会なし)

■ R2年 定例会・学習会予定

- 7月3日(土) 13:30~17:00頃
会 場：大阪市立社会福祉センター
学習会：テーマ未定
- 8月1日(土) 13:30~17:00頃
会 場：大阪市立社会福祉センター
総 会 (学習会なし)



…事務局より…

- ★ 理事会・総会 開催状況
- ・第一回定例理事会
令和二年二月一日
 - ・第二回理事会 開催予定
令和二年八月三日
 - ・総会 開催予定
令和二年八月三日

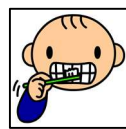
ことば・コトバ

【 ドロップス/Drops 】

The Dynamicnd Resizable Open Picture Symbols とは視覚支援やコミュニケーション支援に活用できるシンボル(イラストで場面や人物などを表現している)ライブラリです。ライブラリの中は項目ごとに分かれ、探しているシンボルが



顔を洗う



歯を磨く

見つけやすく配列されています。ドロップスは、長野県の特別支援学校の先生方が集まり立ち上げたドロップレット・プロジェクトから生まれました。

(清水 麗子)

◆ 外部連携 ◆

多くの団体や取組が停滞を余儀なくされています。

ボランティア協会では、頻繁に行われていた研究会や会合の多くが開催を見合わせられ、会議室の貸し出しも中止、また講師派遣もできず、その結果経営的にも苦境が続いています。

しかし、メール等での情報発信は活発に行われており、会員や協力者間の交信も充実しています。

障害者通所事業所では、コロナ渦にあって活動を休止する団体もありましたが一部事業所では支援を中断することなく防疫体制に注意しながら活動を継続しています。

事業を継続している事業所では活動の場を分散するなどで凌いでいます。事業所によってはコロナ前よりかえって利用者が増加しているところもあるようです。同じ障害者支援でも入所支援事業所の情報はあまりありません。ますます閉鎖性を高めているはずで

私は大阪精神医療人権センターに協力参加して、精神病院に長期入院を余儀なくされている患者の退院支援の訪問活動をしてきましたが、この間、訪問活動はストップしています。当事者の外出も制限され、ますます閉鎖性が高まっていることが問題です。

コロナは、そうでなくとも希薄なひとのつながりをさらに分断してしまいました。

コロナ後に向けて、いっそう外部連携の必然性が高まっています。

(中北 清)

NPO 法人ふくてっくとは・・・

ふくてっくには、建築・医療・福祉分野の有資格その他、多岐に亘る専門職が参加しており、お互いの専門領域における見識と誇りを大切にしつつ、相互の研鑽しあう機会を育んでいます。キーワードは「生活者の視点、当たり前の感覚です。」是非あなたも仲間に入って、自らの人生を耕しませんか。一度、定例会(原則：毎月第1土曜日、13:30~)にご参加ください。定例会では、会員の活動報告や講師を招いての学習会等を行っています。正会員以外の方が定例会に参加される場合は、参加費 500 円です。

*会費：入会金/無料

：年会費/正会員 10,000 円、学生会員 3,000 円、通信会員 500 円

*連絡先：TEL 06-6614-6800

ホームページ <http://fukutech.sakura.ne.jp/>

メールアドレス mail@fukutech.sakura.ne.jp

ふくしとは
くらしを守る
てくにつく
つよーいみかたの
くろーと仲間